

訪問調査の方法

「訪問調査の方法」は、その前段階である事前調査の質と深く関連します。テーマの設定（漠然とした設定ではなく、具体的な狭い範囲の設定と絞込み）とその分野の①概要②現状③問題点④問題点解決への自分の仮説、が事前調査できて初めて初めて訪問調査の段階に進めます。（この事前調査の指導プロセスについてはいずれお話しします。）

中学3年の国内研修班別テーマ学習における訪問先の設定では、訪問日時と地域が12月のある2日間、京都奈良と限定されますのでその条件に満たす訪問先を探させます。主に文献・Webで探させますが、途中の段階で指導教員の班ヒアリング（班員全員に対し、指導担当者が事前学習の完成度や個別テーマの設定と調査状況、班の訪問希望先について質問し、満足に答えられなかった班は不合格となり次の段階に進ませない、という恐怖の“関門”です。）の際に詳しい教員から示唆紹介する場合があります。例えば今年取り組みでは、寺院建築と修復をテーマにする班にヒアリングの際に、卒業生で京都府職員であり寺院修復を担当する建築家を紹介しました。

高校2年の個人課題研究（論文）では、訪問希望先は全国（まれに海外）に及び、テーマもまったく広範にわたるためなかなかみつけれない場合があります。その場合はまずは本人の主要参考文献の著者に連絡を取らせ、その結果を受けながら次の訪問先を見つけさせています。さて、訪問を依頼する場合は訪問目的を明確に相手先に伝えるために、質問事項を依頼状に記載させます。その質問内容の質によって、訪

問を快諾していただいたり断られたりするため、単純に「～について教えてください。」という質問は書かせません。「～について～を調べたところ、～ということがわかったのですが、私（たち）は～ではないかと考えるのですがいかがでしょうか。」というように、その疑問点の出席を明らかにし、自分（たち）の仮説をつけて相手がYes・Noで答えられるように書かせます。そのため、質問文（訪問依頼状）は何度も何度も書き直しになります。指導担当のOKが出ると校長名の公文書を同封して郵送します。当日の訪問では、相手からの提供情報を漏れなく受け取れるように万全の準備をして行かせます。後日、単に丁寧だけでなく提供された情報を確実に受けとれたことがわかるような内容のお礼状を郵送し、次回につなげさせているのです。



中学理科巡検ーレンコン採集

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学・高校 広報部長



化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。よろしくお願いします。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611（代）FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp

総集長から一言

茗溪学園の特徴であるスタディ・スキルの指導の具体例としての「調査方法」の紹介です。

ここで紹介されている指導の特徴は、中高一貫校のメリットを十分に生かしていることです。

中学1年生から高校2年生まで、スタディ・スキルを、生徒の発達段階を考慮し、段階的に、計画的に、カリキュラムにしたがっての指導です。何年かけての全校一体となった指導です。

1200万円の図書費は、生徒一人当たり約1万円にもなります。「生徒の希望する図書はすべて購入します」と言い切っておられる根拠なのでしょう。他の学校では考えられません。うらやましい限りです。